

## 住民説明会質疑概要

1. 日 時：平成25年6月14日（金）18：30～20：05

2. 場 所：村松コミュニティセンター 1階多目的ホール

### 3. 質疑概要

住民) 原因を究明するとのことだが、すでに事故から3週間がたっている。ある程度の原因は特定されているのでは。人的な要因とモノの要因があると思うがどうなのか。また手順書はあったのか。あったとしたら守らなかったのか。

⇒J-PARC) 原因究明として事故当時何が起こったかは大体は把握している。ターゲットである金の標的が溶けたため、放射性物質が発生し外部に漏れた。だが、問題の金標的はまだ放射線量が高く目視ができない状態。最終的には金標的がどうなっているのかを見て確かめ、原因が何であったか最終的な結論を出したいのもう少しお待ちいただきたい。

また、手順書についてはあった。だが、書かれた通りには動かなかった。このことについて深く反省しており、改めるべきこととして認識している。

住民) 法令違反があったということか。

⇒J-PARC) そうだ。

住民) 事故発生から一日以上たつての報告とは隠そうという意図があったように思う。事故が起こった時点で報告すべきであるはず。放射線の扱いの専門集団がなぜ排風ファンを稼働させてしまったのか。もうこのような事故としての説明会はこれっきりにしてほしい。

⇒J-PARC) 被ばくを与えてしまったことはあってはならない痛恨の極みである。今後こういうことが決して起こらないよう最善を尽くす。

また、隠す意図はなかった。結果としてそのような形となってしまったが、通報に当たる事象か検討に時間がかかってしまった。本当に申し訳ないことをしたと深く反省している。J-PARCの建設を始めた10年前に戻り、J-PARCを0から出発していくことを誓う。

住民) 説明会は一般住民を対象にしているのだから、専門的な話ではなく分かりやすく説明してほしい。リアルタイムに住民に素早く知らせるシステムであるが、原電にもJCOに確認しても検討するの一言で今に至っている。検討するという言葉は何もしないのと一緒ではないか。徹底的に対応策を調べるとあるが、いつまでに対応策を作り発表するのか、示してほしい。

⇒J-PARC) 説明の内容が理解しづらいとの指摘だが、これについて反省している。どのようにわかりやすく説明するか、意見を聞きつつ、少しずつ改善していきたい。

また、素早く知らせるための通報のシステムについて重要な対策であると考えている。タイムスケジュールとして2か月以内を目途に対策をまとめ上げ、国への報告、地域の自治体、住民の方々に知らせていきたい。

⇒J-PARC) 2か月を目処とはスケジュール優先を言っているのではない。期限がせまっているから中途半端で終わらすという意図はなく、一つ一つを丁寧に確認し解決策を築きあげていくも

の。2か月を目途というのは目標としての期限である。

住民) 第三者の有識者会議とあるが、第三者とは具体的に誰か。また、地域住民も含まれているのか。地域の行政の担当の方、議員等の参加を計画しているか。

⇒J-PARC) 第三者による有識者会議の位置づけは、文部科学大臣から安全管理体制の見直し、緊急時の見直しを至急行うよう要請があった。委員は5名か6名の委員を考えている。今は人選を進めている段階だが、東海村の行政の方を委員に入れる予定である。その他として、社会学者、安全工学者、加速器に深い知識のある方を考えている。

⇒J-PARC) 先に説明した通報の遅れについて補足させてほしい。現場で通報事象に該当するかの判断に時間がかかってしまったのが大きな要因。原科研の緊急連絡先に通報があつてからは、30分後に県や村や地域の自治体に発信はしている。よって内部で通報事象か検討する時間、外部に発信していく時間、両方の側面から通報遅れについては改善・検討していきたい。

住民) 手順書はあつたのに守らなかったのは無いに等しい。

⇒J-PARC) その通りで、あるのにできなかったのが最大の原因。反省したい。

住民) 安全についての教育や訓練はすぐできることではないのか。一般企業でもちゃんとやっている。

⇒J-PARC) 安全教育は大切だと認識している。今回の事故で国際原子力事象評価尺度でレベル1と暫定され、安全文化の欠如といわれているが、我々の安全への考え方のレベルが低かったということである。今後このようなことがないように努力したい。

住民) 再発防止策・安全管理体制の構築について、その対応の住民の開示はどのようにしてもらえるのか。

⇒J-PARC) 我々は法律を犯してしまった。再発防止策、安全管理体制の見直しは公にされるものなのでどなたでも入手可能。ただ、それで済ますつもりはなく、地域住民の方にきっちり示すことができるように最大限努力する。

住民) 今回の事故はハドロン実験施設だが、J-PARC 個々の安全対策については、J-PARC 全体で見直すと理解してよいのか。

⇒J-PARC) そうである。

住民) 第三者有識者会議は一般の方も参加できるのか。

⇒J-PARC) 一般の方は委員として予定していない。

住民) では傍聴はできるのか。

⇒J-PARC) 議事録の開示は行う予定でいる。傍聴はまだ議論中ではあるが、非公開として考えている。

住民) 今回の事故は2つの点がある。一つは報告の遅れ。23日の23時30分のハドロン管理区域の閉鎖時に報告すべきタイミングだった。報告の考えが甘かったと思われて仕方がない。もう一つは放射性物質を閉じ込めるべき建屋から漏えいが起こった。これは大きな問題。

⇒J-PARC) 何度か通報するタイミングがあったという指摘はその通りである。今回の事故はそれを全て見過ごしてきたために起こってしまった。反省すべきところである。

また、施設の問題。建屋の構造は建設時に安全を担保すると国から許可を受けたものであった。使いたくはないが今回の事象は想定外であったため、それを見越しての設計ではなかった。放射線が漏れない前提で設計された建屋なので、密閉構造にはなっていなかった。

住民) 今回の事故については早いところ終息させるべきで、従来 J-PARC は国民のため人類のためにスケールの大きな実験を行っているものと思う。このようなつまらないことに労力を費やさないでほしい。我々は J-PARC に期待している。ノーベル賞受賞などの明るいニュースを生み出していただき、事故の始末をつけて本来の研究の仕事に戻っていただきたい。

⇒J-PARC) 私どもも住民の方々のご理解をいただいた上で、東海村から研究成果を世界に向けて発信していきたいと考えているので、今後ともご支援のほどよろしくお願ひしたい。

住民) 今回の事故において何が想定内で何が想定外だったのか、センター長のお考えをお聞きしたい。また、第三者委員会の議事録をホームページで公開するというが、そういうかたちでは見ることが出来ない方も多し。皆にわかるかたちでの公開をお願いしたい。

⇒J-PARC) 2秒間で出てくるであろうビームが約200分の1秒で出てしまった、これが想定外の事象。当時は想定していなかったということをお伝えした。

住民) 電磁石の誤動作について詳しく教えていただきたい。再現実験はやっていないのか。

⇒J-PARC) ハドロン実験施設にビームを引き出す時ちょっとずつ取り出す、その取り出し具合を調整する役割を果たすのが電磁石。電磁石の電源がこちらの出した命令に従わず、一気に大きな電流を電磁石に対して流してしまった。今後、電磁石に係る作業手順を第三者に確認いただく。再現実験はまだやっていない。

住民) 常総市のオンブズマンをしているが複数の人間から様々な情報が集まってきている。

J-PARCにおける安全に対する考え方について、今までこういう事故はなかったのか。2007年に法律上許可されていない出力で運転してタンデムで事故を起こし、しばらく運転停止に追い込まれたと聞いている。2010年9月22日深夜11時、MRトンネル内入射口キッカー電磁石解放作業中に監督責任者である作業員の骨折事故があったが、その監督責任者が病院に行っている間、作業員3名が監督責任者なしに深夜3時まで作業をしていたそうである。今年の5月12日にボヤが起きたと聞いているが、放射能は漏れていないのか。

⇒J-PARC) タンデムの話は承知していない。2010年の骨折事故だが、ビーム運転前であり機器据え付け中の事故であったと考えられる。

⇒J-PARC) ボヤの話だが、火災になる前のこげや発煙の段階からその都度関係各機関に通報している。東海消防の方には火災に該当するかしないかについてもその都度判断してもらっている。

5月12日の件での放射能漏れはない。

住民) 金標的の大きさはどのくらいなのか。また、18金とかなのか。

⇒J-PARC) 6mm×6mm×6.6cmの角柱。重さが50g程度。ピュアな純金である。熱の伝導がいいため純金を使用している。

住民) 排風ファンを回す決断をしたのは誰か。原科研の正門前は小学生なども通る場所であるが、線量は事故後すぐに確かめているのか。

⇒J-PARC) 放射線取扱主任者が最終的な判断を行った。

⇒J-PARC) 原科研内部、敷地周辺などのモニタリングポスト全て正常値であった。

住民) そもそもハドロン実験施設に排風ファンが設置されているのがおかしい。そもそも密閉されているべきで、設計の誤りではなかったのか。

⇒J-PARC) ご指摘の通り、設計思想に誤りがあった。排風ファンは第2種管理区域における湿度や温度の管理をするために空調として設置していた。防護の思想が足りなかった。今後改善していく所存だ。

住民) 一番がっかりしたこととして、今回の事故の原因として機器の誤動作ということが新聞に出たが、機械のせいだと言っているように感じた。今後の原因と対策については、建屋が負圧になっていないことが問題である。本来は負圧にしてベントでも付けるべきだったはず。建屋そのものを負圧にして外部に飛散させないようにすることは考えているか。また、機械を導入する際にはあらゆる暴走をシミュレーションするのが普通ではないか。さらに、人間は誰も間違いを犯すという考えが足りない。21世紀の新技术に対応すべき研究者は、成果と同レベルの高い安全意識と環境が必要であり、それらを踏まえた上で進めてほしい。情報公開を徹底して住民はじめ外部の第三者の信頼を回復するために頑張ってください。

⇒J-PARC) 負圧管理をする。ファンも停止、完全密閉。これを全ての施設に適用したい。

住民) 排風ファンを回すということはマニュアルにあったのか。

⇒J-PARC) 特に定めはない。施設内部が暑い時や湿気の多い時などに排風ファンを使っていた。

住民) 放射性物質の出るような施設で働いている人間であれば、万が一の時とはとにかく施設の内部に放射性物質を留めておくのが当たり前のはずではないか。

⇒J-PARC) 安全管理体制、手順、マニュアル等含めすべてを見直し、安全なJ-PARCとして生まれ変わらせる。そして、どのように生まれ変わったかを要約して提示し、住民の方々のご理解をいただけるようにする。

住民) 今回の事故で一番残念に思うのは、あえて横文字で言わせてもらおうとセーフティーカルチャーの欠如だ。安全文化の醸成は1カ月や2カ月でできるものではなく、この点について第三者委員会に諮問してほしい。今回の事故は原子力の街である東海村が築き上げてきたものを

損なった。建物の負圧管理など当たり前のことだと思っていた。

また、もしもサイクル研のモニタリングポストからの指摘がなければ、今回の事故を報告しなかったのではないか。放射線管理を強化する必要があると思う。今回の事故で様々な核種が出ているが、放射線線量計測はこれまでと同じで大丈夫か。

⇒J-PARC) 12、3年前にこの地区の住民の方々と話し合いをさせていただいた。当時、地区と協定書を結んでいるが、その文書を読んだところ、今回の事故に思い当たることがすべて書いてあった。痛恨の極みであり、もう一度原点に立ち戻らねばならない。

住民) 資料 11 ページにある  $0.29 \mu\text{Sv}$  という数字は総量なのか。あるいはプラスされる量としてのものなのか。

⇒J-PARC)  $0.29 \mu\text{Sv}$  は今回の事故における外部環境への漏えいが起こった時、最大地点にずっといた場合にこれだけの被ばくを受けてしまう可能性がある、という数字である。また、中身としては内部被ばく・外部被ばくの両方を含むものである。

住民) 何人かの方が安全の確認の上、再開を望むという期待を込めた意見を言われていたが、今、一番すべきはなぜ今回の事故が起こってしまったのかの原因究明である。ちゃんと判明してから再開というのを考えてほしい。

⇒J-PARC) 専用電磁石の誤作動は事故のきっかけにすぎないと考えている。安全意識を改善して、そのような事故が起こった時にやるべきことは排風ファンを動かすことではない。そういった意識を改善して、二重三重にもこのようなことが起こらないようにできるよう、時間をかけてでも意識の改革をしっかりと進めていく。

住民) もっと素早く地域に対して対応してくれないと困る。対応の方向性を間違えないでほしい。また、情報は正確に伝えてほしい。

⇒J-PARC) ご指摘いただいた点を今後しっかり受け止めていきたい。

以上